



明治30年代の浜町

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 15 □

自然循環の中の生活風景

写真は明治30年代の浜町。長崎の町家と通りを歩く人々の風情がうかがえる。鉄橋を渡った旧西浜町入口（現浜町アーケード入口）から浜町の商店街を撮影している。背後は風頭（左）と愛宕山（右）。左端のBARBERは商

店街の角にあった増山理髪店。その横は「正札より一割引」の今井下駄屋。その横は柳行李など生活雑貨を並べた日の出本店。さらにきのくにはや呉服店、福岡銀行と続

く。奥には佐々木時計店（現とれとれ旬家浜町店）の時計塔が見えている。これはトやちり箱が置かれ、電柱に架かる細い線は電線、太い線

は電話線である。和傘の付いた木製の柱は、くんちの踊町が「厭燈」と書かれた御神燈を掲げるちようちん立てである。撮影した日は雨模様だったようで、手に和傘を持ち、舗装されていない道はぬかるむのか、女性も男性も高げたを履いている。奥に写る人力車に乗っている人は洋装の軍服であるが、他は皆、和服である。男性はシャツの下に股引（パッチ）を履き、着物に羽織を引っかけている。イ器が見られながらも、路上にはまだ自転車も自動車もない、自然素材と自然循環の中の生活風景である。

（長崎外国語大所蔵）

随時掲載します